



# 第二中学校だより

R7 ミッション 「Two-Way コミュニケーションによる教育活動」

令和8年1月号

二中 HP



## 新しい時代の「解」を求めて - 変化の激しい令和を生きる -

校長 小関 直

新年、あけましておめでとうございます。

生徒たちの元気な声が校舎に戻り、令和8年の清々しいスタートを切ることができました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えたことお慶び申し上げます。

### 社会の変化と「問い合わせ」を立てる力

さて、私たちが生きる令和の社会は、今まさに劇的な転換期にあります。生成AI(人工知能)は昨今の進化を経て、もはや特別な道具ではなく、私たちの生活や学びに溶け込んだ「パートナー」となりました。知りたい情報が瞬時に手に入るこの時代、大切なのは「答えを知っていること」ではなく、「何のためにその技術を使い、どのような問い合わせを立てるか」という力です。

本校でも、デジタルとアナログを融合させた授業を展開していますが、何より重視したいのは、生徒一人ひとりが「自分の頭で考え、判断する」プロセスです。情報に振り回されるのではなく、溢れる情報の中から真実を見極め、それを活用して社会にどう貢献できるか。そのための「基礎学力」と「批判的思考力」を、この3学期も共に磨いていきたいと考えています。

### 多様性の中での「対話」

また、社会では「多様性(ダイバーシティ)」への理解がさらに深まり、個々のウェルビーイング(幸福)が尊重されるようになっています。本校においても、自分と異なる背景や意見を持つ仲間を尊重し、認め合うことは、これからの中の国際社会を生きる上で欠かせない資質です。

SNS等の普及により、非対面でのコミュニケーションが増えていますが、学校という場所は、対面での「生きた対話」ができる貴重な場です。意見がぶつかったとき、どう折り合いをつけるか。仲間の痛みをどう想像するか。画面越しでは得られない温もりや葛藤を経験することこそが、豊かな人間性を育むと信じています。

### 真の「公(おおやけ)」を身につける

2学期終業式。本校では6年ぶりに体育館に集合しての実施となりました。次のような話をしました。

\*\*\*\*\*

コロナ禍をきっかけに、人の交流が制限され、先輩たちの立派な背中を見る機会や、社会の空気を感じる機会が奪われてしまいました。その結果、自分たちの周りの友達だけの基準、いわば「自分たちルール」で行動することに慣れてしまったのかもしれません。これを「集団中毒症」という学者もいます。

○教員の超過勤務の実態 ※法令上、超過勤務は、月45時間、年間360時間(月平均30時間)までと定められています。

服務監督違反となる11月の実態:45時間越え17名【内、80時間(過労死ライン)越え1名、100時間(〃)越え0名】(10月比+2)

11月の平均超過勤務時間:32時間28分(10月比+1時間01分) ※今後、80時間を超えた教員の時間外勤務は抑制されます。

○いじめの認知件数 ※法律では、いじめを「心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものも含む。)であつて、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの」と定義しています。

4月13件、5月13件、6月18件、7月5件、8月0件、9月14件、10月19件、11月13件、12月6件 累計:101件

※年齢不相応にレベルの低いコミュニケーション(ふざけたあだ名、じゃれ合い、もの隠し等)からのトラブルが目立ちます。また、不用意なSNSへの投稿、DMに対する感情的な対応、不適切画像の送付等、あいかわらずスマホによるトラブルも多く報告されています。保護者による使用状況の確認もはや必須で、保護者の管理責任が問われています。

その結果として、今、私が一番心配していることがあります。それは皆さんの中に「公(おおやけ)」という感覚が薄れています。

例えば、1階の職員室前から事務室にかけての廊下。そこは、先生方や職員の方々の「仕事場」です。社会的に見れば、仕事場の前で大声でおしゃべりをしたり、走ったり、腕を組んで広がって歩いたりすることは、非常に失礼なことです。あってはならないことです。

以前の中学生であれば、先輩から後輩へ「あそこは静かに通る場所だ」と自然に受け継がれていた常識でした。しかし今は、学年に関係なく、まるで運動場のように振る舞う人がいます。

この、自分以外の誰かの存在を考え、場にふさわしい行動をとること。それを一言で「公(おおやけ)」と言います。

第二中学校の今の課題は、この「公」の意識が少し足りないことです。

他にも、朝の登校時間。「8時25分」に校門を通過することになっていますね。

これに対して「8時30分のチャイムまでに席にいればいいんでしょう?」と考えるのは、少し子供っぽい、「自分本位」な考え方です。はっきり言います。音楽が鳴り終わっても登校できていない人は、たとえ遅刻がつかなくても、それは「準遅刻」です。社会に出れば、それは「準備不足」という評価になります。余裕を持って行動し、心を整える。それが初めて初めて、信用される大人になれるのです。「公」を教えることは、学校の責任です。

\*\*\*\*\*

コミュニケーションを通じて「公」を学ぶことは大切だと思います。

### 3学期、それぞれの「結び」に向けて

3年生にとっては、義務教育の集大成となる進路選択が控えています。1・2年生にとっては、次年度へのバトンを受け取る準備の期間です。

### 「昨日の自分を、ほんの少し超えていく」

変化の激しい時代だからこそ、周囲と比較するのではなく、昨日の自分との比較を大切にしてほしいと思います。本年も、教職員一同、生徒一人ひとりの「個性」と「可能性」に寄り添い、全力を尽くしてまいります。

### お世話になりました。

1年生を担当していた カルモナ海渡 教諭は、新座市立野火止小学校に異動となりました。ガンバレ～!

